



朝日子だより

特別編<国家試験>

医療特集



今回は、医師と歯科医師を並立して掲載しました。

同じ医者という職業でも同じところや異なるところがあり、自分たちがどのような医療に携わりたいのか、真剣に考えていくための良い参考になると思います。

今回だけでなく、以前に載せたVol.1, Vol.2や今後の「朝日子だより」を参考に自分の進路決定をより良いものにして下さい。



吉田高校のみなさんへ

理数科そして大学へ進学し専門資格取得にいたるまで私が感じたことを中心に書きました。なんとなく読んでください。

赤澤 慶恵 (平成16年度 理数科卒業)



出身大学：愛媛大学 学部・学科名：医学部・医学科

職業名・資格名：医師

興味を持つきっかけ

1. なぜ医師を目指したのか

世の中に貢献できる職業である医師に幼いころから憧れていました。

また、高校の進路を決めるとき、自分にとってなにが一番大切かを考えました。とても個人的な感情ではありますが、家族や自分の周りにいてくださる人が一番大切だと思いました。そんな大切な人が苦しんでいるときに、誰かに頼るのではなく、自分が何かしたい、よし、医者になろう。と思いました。



吉田高校のみなさんへ

人と接するとき、苦手な分野に取り組むとき・・・どんなときでも正面から向き合い目を背けないでほしいと思います。きっと答えてくれると思います。苦手なものは克服できると思います。

古屋 まど香 (平成16年度 理数科卒業)



出身大学：昭和大学 学部・学科名：歯学部・歯学科

職業名・資格名：歯科医師

なぜ歯科医師を目指したのか

私は、父親の職業の影響もあり、資格取得の願望が昔から強く、また、両親もそれを望んでいました。女性であることを考えたとき、将来的には結婚や妊娠、出産の可能性が考えられ、どうしても社会から離れざるをえない時があり、社会へ復帰するためには「資格」の強みは大きいと考えていました。

高校1年生の時に身近な人の死に直面し、医療の世界に興味を抱きました。医療に関する職種を考えたとき、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、検査技師・・・など様々なものが挙げられますが、その中で、身近に感じられ、しかし、実はよく知らないものが、歯科医師でした。親戚に歯科医師がおり、話を聞き、私は益々興味を持ちました。そして、歯科医師を志すことを決めました。

2. 職業・資格までのおおまかなルート

<医師>

医師など国家資格が特別なのは、専門教育を受けていないと試験が受けられないことだと思います。医学科は大学へ6年間通います。大学によって多少異なりますが、1年が一般教養、2年が解剖・基礎医学、3年が内科外科一般、4年が眼科、皮膚科など内科外科以外の科目。そして5年で病院での臨床実習を行ない、6年で卒業試験・国家試験を受け医師となります。

1年生の時は、普通の大学生活を楽しみました。

2年生で行う解剖実習を終えてはじめて医学部生だ、と言う人がいますが確かに解剖の授業の衝撃は大きいです。私個人としては‘生きている’ということについて深く考えるきっかけになりました。

3年生からは臨床医学を学んでいきます。実際の手術のビデオを見たり、症例を考えたり医師というイメージに近づきます。また、このころに研究室へ配属され実験をすることが出来ます。私は薬理学教室へ行き動物実験などさせていただきました。そして5年生の病院実習で現場をみて今までの知識をどうやって使っていくのかを学びます。臨床に近づいたのも束の間、6年生はまた受験勉強を頑張ります。



大学によるので調べよう

<歯科医師>

歯科医師になるためには、大学の歯学部（6年制）を卒業する必要があります。卒業すると歯科医師国家試験の受験資格が得られ、国家試験に合格すると歯科医師の免許が与えられます。免許取得後は1年間の研修が義務付けられており、大学附属病院や研修施設として認可されている都立・県立の病院にて、研修医として働きます。その後は、歯科医師として治療に専念したり、大学院に進学し研究をしたりとそれぞれの道へ進みます。



3. 資格試験とその内容

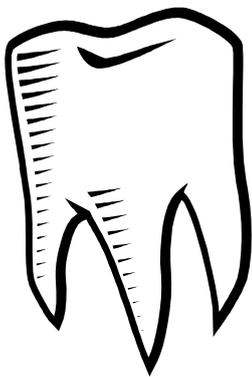
<医師>

少し細かい話になります。国家試験は、必修問題（人間性や常識を問う問題）、一般問題・臨床問題（一般は、基礎知識を問うもの。臨床は、具体的な経過から疾患・検査を選ばせるもの。）からなります。試験は3日間で、朝8時40分集合の5時終わりくらいです。1コマの長さは、3時間くらいのこともあります。（理数科の数学のテストと同じくらいですね）必修問題は、8割得点が必要です。他の問題は、相対評価で必要得点が決まります。また、禁忌問題があり、その問題を3問以上間違えると、他の項目を満たしていても試験は不合格となります。（基準は変わっていくと思います。）



独特の雰囲気がありますので、精神力が必要です。（私はセンター試験・大学受験より緊張しました。）

最近の傾向として、英語の問題が出題され始めています。（私は英語が苦手なので大変恐れていました。みなさん、英語は大切です！！！！）全体的に、丸暗記から思考能力を問う問題へかわりつつあります。合格率は現役92%・国試浪人で87%と高めです。入学と進級のほうが大変ではないでしょうか。



< 歯科医師 >

歯科医師国家試験は1年に1回、2月の中旬に実施されます。内容は、もちろん歯科に関すること全てで、必修問題・一般問題・臨床実地問題に分かれて出題されます。必修問題は、歯科医師になる上で確実に知っておかなければならない知識を問われ、80%以上の正答率が求められます。一般問題は、歯科に関する幅広い知識が問われます。臨床実地問題は、口の中の写真やレントゲン写真を見て、設問に答えていく問題です。全てマーク式です。

近年では、歯科医師過剰のため、国家試験合格率が年々下がってきており、国家試験の内容も年々難しくなっています。しかし、それでも合格率は60~70%です。他職種に比べたら、合格率の高い試験だと思えます。

4. 試験対策・学習方法

< 医師 >

基本的に大学受験と同じで、過去問を解きます。医学科の試験を受けていて思ったのは、どの試験においても自分に合った勉強スタイルは変わらない、ということです。

私は、高校のときなんとなく言われたこと・与えられたことをこなして自分の勉強スタイルというものはありませんでした。大学に入学し、初めて自由に勉強して良い、言い換えれば自分で考えて勉強していかなければならないという状況におかれました。必死にこなしていくうちに自分に合ったスタイルが見つかりました。でも思ったのは、このスタイルで高校の時から勉強しておけば、もっと希望にかなった大学にいったのではないかと、ということです。早く自分の勉強スタイルを確立すれば可能性は広がります。



< 歯科医師 >

国家試験に向けて本格的に勉強を始めたのは、大学6年生6月からです。

私立の歯学部では、学校で国家試験対策講義をしてくれるので、授業の流れに乗れば、ほぼ合格出来ると思います。私の1日は、昼は学校の講義を聞き、夕方からは教室・食堂・図書館などに残り、21時頃まで勉強をしていました。講義では、自分に合った参考書を持ち、重要項目をチェックし、足りないところは書き入れるスタイルで勉強していました。また、過去問題集を繰り返し解いていました。分からないところは書き出して、調べたり聞いたりし、疑問点を残さないようにしていました。



5. いま役に立っていると感じる高校・大学時代の経験

< 医師 >

高校時代の経験としては、朝から晩まで勉強しつづける忍耐や、気合いと根性(笑)・・・でしょうか。長い試験時間に慣れていることも役に立ちました。

また、私は大学に進学するときに学部の希望を優先させて、場所を選びませんでした。それで山梨から愛媛へ移住したわけですが、自分の育った環境から遠く離れて異なる価値観に沢山触れました。視野が広がったように思います。今では愛媛に行って良かったと思っています。



< 歯科医師 >

一番役に立っていると感じるのは、高校時代の生活です。勉強だけでなく、時間・身なりなどの生活態度についての指導もあり、そのときの経験は、歯科医師となった今、本当に役に立っていると実感しています。患者さんを診るにあたり、治療時間に遅れないこと・清潔な身なりは基本的なことです。

その基本的なことを教えてもらったのが高校時代です。このことは、歯科医師に限らず、どの職種においても同様だと思います。

また、大学時代においては、アルバイトをしたり海外の交流会に参加したりと色々な人と接してきました。この経験は、物事の視野を広げ、自分の価値観にも変化をもたらしたように思います。人は人との関わりで色々なことを学び、成長していくのだと感じました。病院には色々な考え方をを持った患者さんが来院します。患者さんと接していく中で、視野を広く持つことは大切であると、実感しています。

6. その他

<医師>

医師をえらんで良かったと今思うところ

働くことが、考えることが楽しいです。もちろんまだまだ未熟で十分にこなせてはいません。ですが現場にいると沢山勉強したい！と思います。あっという間に時間が過ぎる、夢中になれる仕事です。

また、働きだして憧れる先生に沢山出会いました！そんな先生方と一緒に仕事ができるのも幸せです。

就職について

今は、研修指定病院であれば、6年生の夏に試験をうけたら全国どこへでも就職できます。出身大学は就職し易いので、就職先が決まらなくて困ることは少ないと思います。



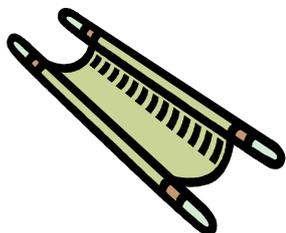
出身大学による差

臨床（普通のお医者さん）をする限りにおいて、差はまったくありません。例外として挙げるなら

- ① 研究がしたいなら東大理Ⅲなど良い大学を目指すと良いです。
- ② 一部では出身大学によって働きやすさが変わることもあるみたいです。
- ③ 地方では、医師確保目的で就職の際に県外へでにくいことがあります。

今苦しんでいること

英語と日本語です！！(笑)最新の標準治療は英語で書かれています。日本語で書かれていても理解できているか怪しいですが、それを英語で読むので恥ずかしながら大変苦労しています。また、この文章を読んでいてお気づきかもしれませんが、病歴を書いた時に「日本語が変！」とよく言われます(笑)。医師は患者さんに状態や治療の現状など、様々な情報を分かりやすく伝えるのも大切な仕事で、日々上手く伝えるには何と言えよいかと難渋しています。



可能性を秘めたみなさん！

自分が一番つらい、ということはないと思っています。苦しい状況なんていうものはもっと、もっとあります。自分に出来ることを精一杯して、さらなる高みをみたいじゃありませんか。私自身、一生勉強し続けます。一緒に頑張りましょう。

<歯科医師>

高校・大学を経て思うことは、正面から向き合うことの大切さです。吉高生の皆さんには、人と接するとき、苦手な分野に取り組むとき・・・どんなときでも正面から向き合い目を背けないでほしいと思います。きっと答えてくれると思います。苦手なものは克服できると思います。これから、受験、就職など様々なことが待ち受けていると思いますが、どんなことも精一杯頑張ってください。そして、沢山のことを経験して欲しいと思います。

